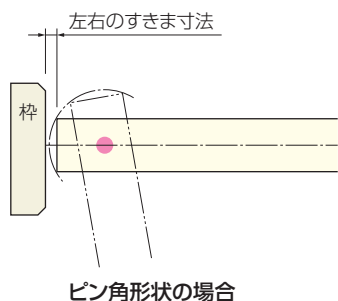


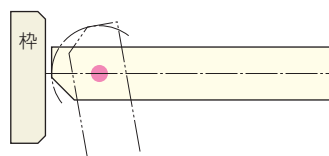
開き戸金具 1  
引戸金具 2  
上吊式引戸金具 3  
AFD  
HR  
SD  
連動引戸  
オプション  
引戸錠 4  
移動間仕切金具 5  
室内用アルミ建具 6  
折戸金具 7  
取手・引手 8  
スライド丁番 9  
スライドワイヤーバスケット 10  
収納・吊金具 11  
その他の家具金物 12  
物干金具・諸金具 13  
設計施工ガイド  
会社案内

**Q5** 戸と枠の左右のすきま寸法は、どのように設定すればよいでしょうか？

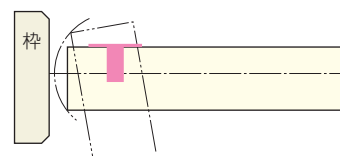


ピン角形状の場合

**A5** 折戸を開閉させるには、戸が回転する際に枠に当たらないようにするためのすきまが必要になりますが、木口の角の形状や、回転軸となる金具の位置関係によって必要なすきま寸法はさまざまとなります。当カタログの「設計ガイド」ページ、「左右のすきま設定」に記載の表の値は、折戸の木口形状が「ピン角形状の場合」での参考値となります。左右のすきま寸法を設定する際は、実際の納まりや、枠や戸の反りなどを考慮のうえ、この値に余裕のある寸法をプラスして設定してください。



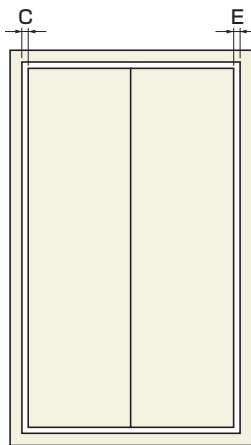
面取り加工・R加工の場合  
すきま寸法を小さくできる



裏面付け吊り車の場合  
すきま寸法が大きくなる

■表記追加 (25/07/01)

**Q6** 4組(8枚)の折戸を、両サイドの2組は吊元固定タイプに、中間の2組はフリーオープンタイプにしたいと思っています。このときの隙間寸法の設定方法を教えてください。金具はAFDシステムAFD-2700を考えています。



**A6** ご質問のような組み合わせは、折戸を3組以上使用する場合に、多く見られます。

- ①両サイド2組の吊元固定タイプに必要な隙間を調べます。  
カタログの「戸と枠(またはレール)との必要すきま寸法」の表「吊元固定タイプの場合の吊元側すきま寸法」から、戸厚に応じた寸法を選びます。吊元が2ヶ所ありますから、選んだ「吊元側すきま寸法」を2倍したものが、吊元の隙間寸法となります。

【例】戸厚33mmの場合  
吊元側すきま寸法=5.0mm、吊元が2ヶ所ありますから  
 $5.0\text{mm} \times 2 = 10.0\text{mm}$ となります。

- ②中間2組のフリーオープンタイプに必要な隙間を調べます。  
カタログの「戸と枠(またはレール)との必要すきま寸法」の表「C+E(フリーオープンタイプの場合)」から、戸厚と戸幅に応じた寸法を選びます。この寸法がフリーオープンタイプに必要な隙間寸法となります。  
フリーオープンタイプの場合、フリーオープンタイプ折戸が何組になっても、一組分の隙間寸法を確保すれば開閉できます。

【例】戸厚33mm・戸幅400mmの場合  
 $C+E(\text{フリーオープンタイプの場合})=4.4\text{mm}$

- ③2組分の吊元固定タイプに必要な隙間とフリーオープンタイプに必要な隙間を合算します。これで必要な隙間寸法が求められました。

【例】 $10.0\text{mm} + 4.4\text{mm} = 14.4\text{mm}$

●左右のすきま設定 (折戸1組の場合)

※下表は戸が軸回転する範囲の参考値です。この値に枠や戸の反りなどを考慮した寸法をプラスして設定してください。

C+E (フリーオープンで吊元固定用キャッチを使用しない場合)

使用丁番: HD-37	戸厚/戸幅	300	350	400	450
30	4.8	4.3	3.9	3.6	
33	5.5	4.9	4.4	4.0	
35	6.0	5.3	4.8	4.4	
40	7.4	6.5	5.8	5.3	

C+E (吊元固定の場合)

使用丁番: HD-37	戸厚/戸幅	300	350	400	450
30	7.5	7.1	6.8	6.6	
33	7.9	7.5	7.1	6.9	
35	8.2	7.7	7.4	7.1	
40	10.1	9.5	9.1	8.8	

CまたはEが吊元固定の場合の吊元側すきま寸法

戸厚	C(またはE)
30	5.0
33	5.0
35	5.0
40	6.1

※上記の参考値は「上下の金具の軸位置=戸端から30mm」、「丁番結合部のすきまは0mm」として算出しています。

ご注意

「戸と枠(またはレール)との必要すきま寸法」には、枠や折戸の仕上り寸法精度・現場の水平精度などは考慮されていませんので、この分を設計される際に見込んでいただく必要があります。